

日本特許庁「JPO AIビジョン」戦略的解剖

個別実証実験から「行政AIガバナンス」の本格展開へ
(2026年7月公表)

知財専門家・経営層向け
エグゼクティブ・ブリーフィング

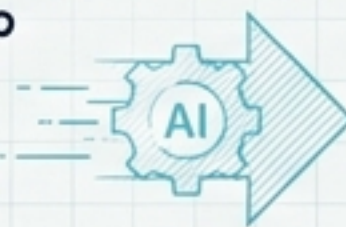
The What (位置づけ)

2017年からの
「AIアクション・プラン」を、
生成AI時代に耐えうる
行政組織としての
「上位方針」へ格上げ。
単なるツール導入では
ない。

The Why (理念)



「人間中心の原則」の下、
機密漏洩や誤情報出力
のリスクを管理しつつ、
AI活用を一層積極的に
進める
「ガードレール付きの
攻めの姿勢」。



The Impact (目標)

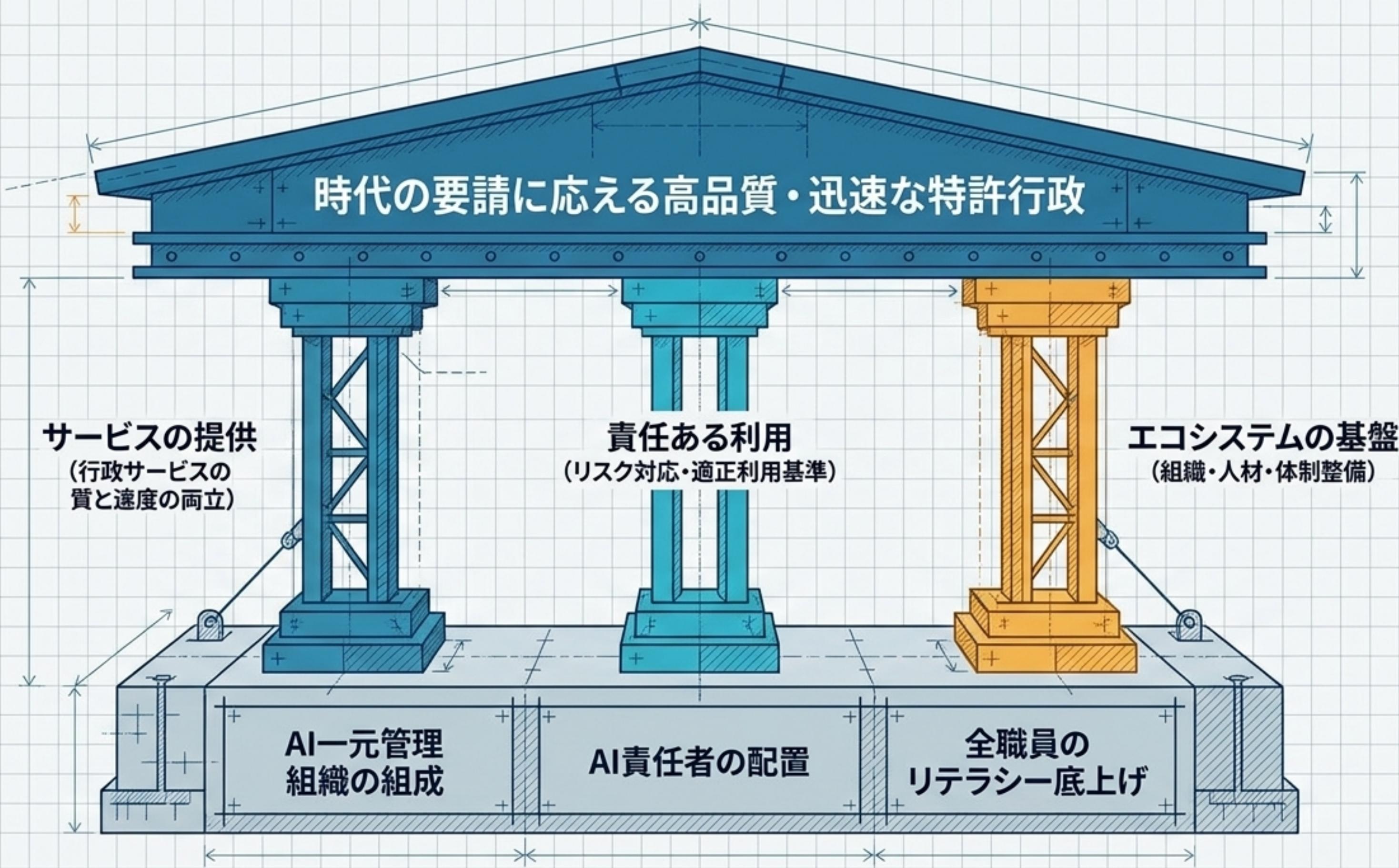


「高品質・迅速な
行政サービスの提供」
の同時達成。
法改正を待たず、まず
は運用基準、説明責任、
内部統制として
即時実装される。



慎重姿勢への回帰ではない。 「ガードレール付きの攻めの活用方針」





時代の要請に応える高品質・迅速な特許行政

サービスの提供
(行政サービスの
質と速度の両立)

責任ある利用
(リスク対応・適正利用基準)

エコシステムの基盤
(組織・人材・体制整備)

AI一元管理
組織の組成

AI責任者の配置

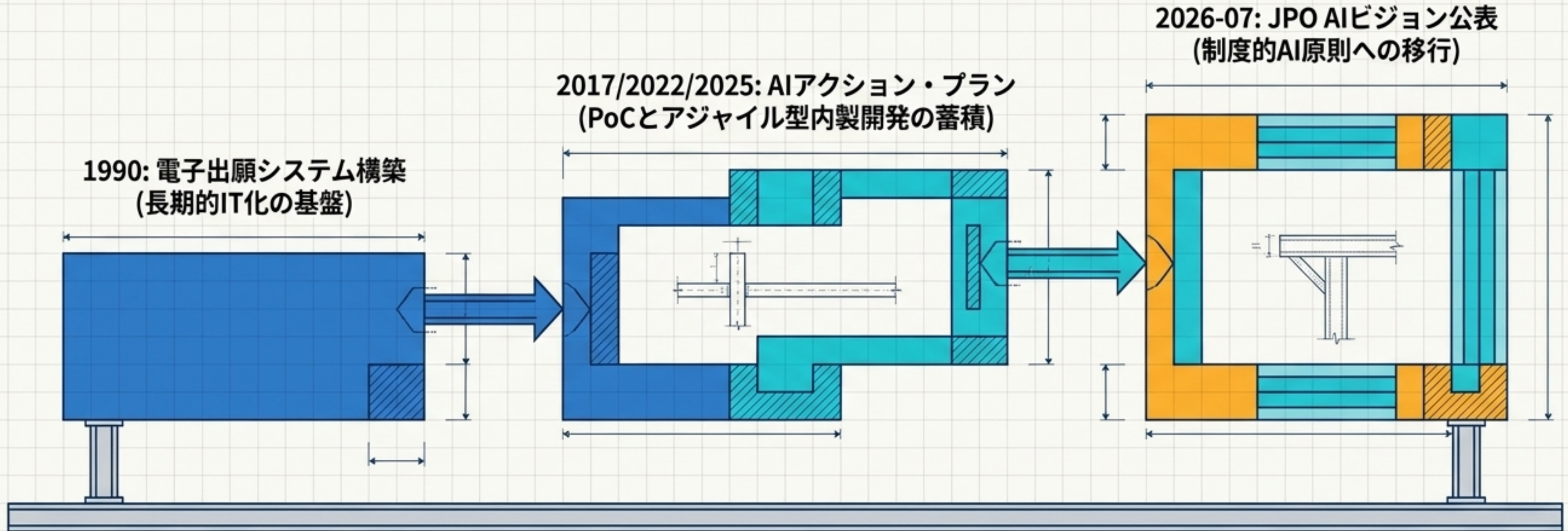
全職員の
リテラシー底上げ

ガバナンスの要石：Human-in-the-Loop (HITL) による最終判断



AIが単独で審査官の代わりに行政処分を決定することはない。
手続保障上の正当性を確保するための最低条件の明文化。

JPO AIビジョンに至る政策・実務の流れ



**個別の技術実証（PoC）の時代を終え、庁全体を貫く
「制度的・組織的AI原則」への歴史的転換点。**

政府横断・国際協調枠組みとの完全なアライメント

国内枠組み

- AI法
(2025年公布・施行)
- AI事業者ガイドライン
(2025年12月)
- 人工知能基本計画第Ⅱ期
(2026年7月14日)

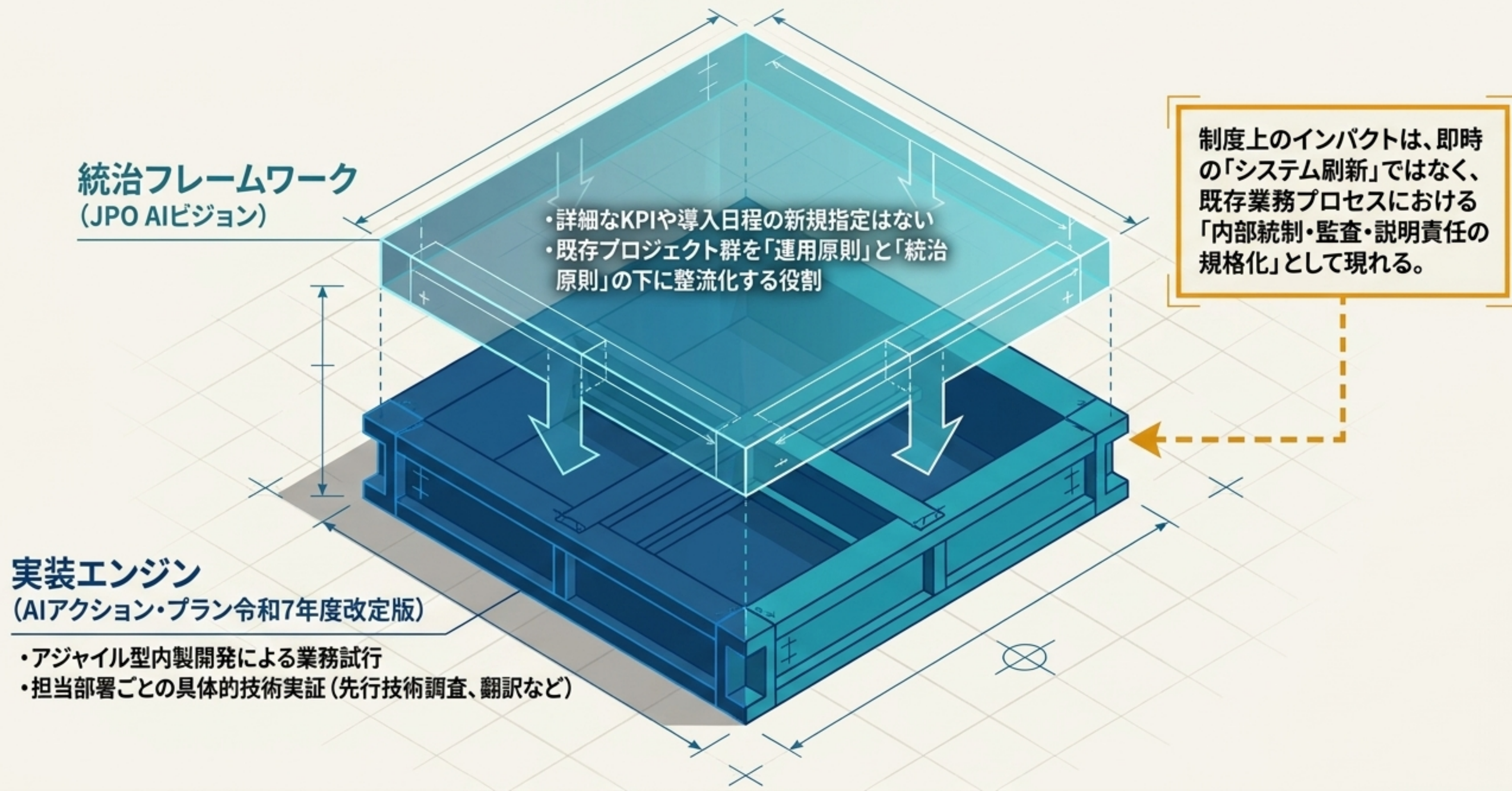
JPO AIビジョン

(2026年7月27日公表)
- これら上位環境の理念
(信頼性・透明性)を知財
行政に直接接続。

国際協調枠組み

- IP5東京会合合意
(2026年6月:五庁でのAI協力強化)
- 三極AIビジョン
(策定協議中:HITLの重要性共有)

実装の現実：「ゼロからの導入」ではなく「ガバナンスの上乗せ」



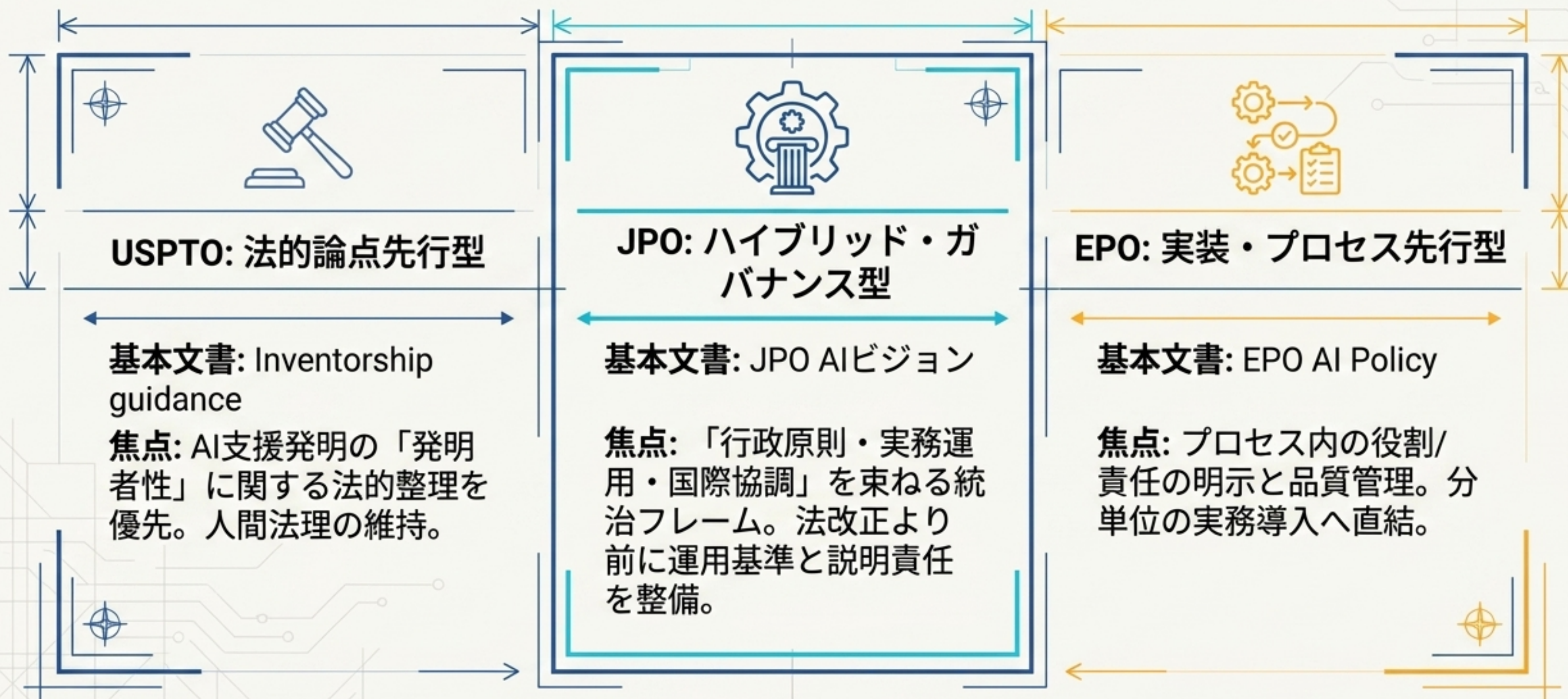
利点と課題の診断マトリクス

Perspective (観点)	Expected Benefit (期待)	Anticipated Risk (リスク)
審査運営 - Examination	 文献探索・要約の高速化による迅速性向上	 誤抽出への依存による見落とし・過信 
品質管理 - Quality	 類似案件間の均質性・一貫性の向上	 判断のブラックボックス化と根拠説明の弱体化 
情報セキュリティ - Security	 内製・統治強化による安全な利用基盤	 モデルへの入力管理不備による機密漏洩 
行政責任 - Accountability	 AI責任者設置による組織能力の底上げ	 現場の理解不足による運用格差・形骸化 

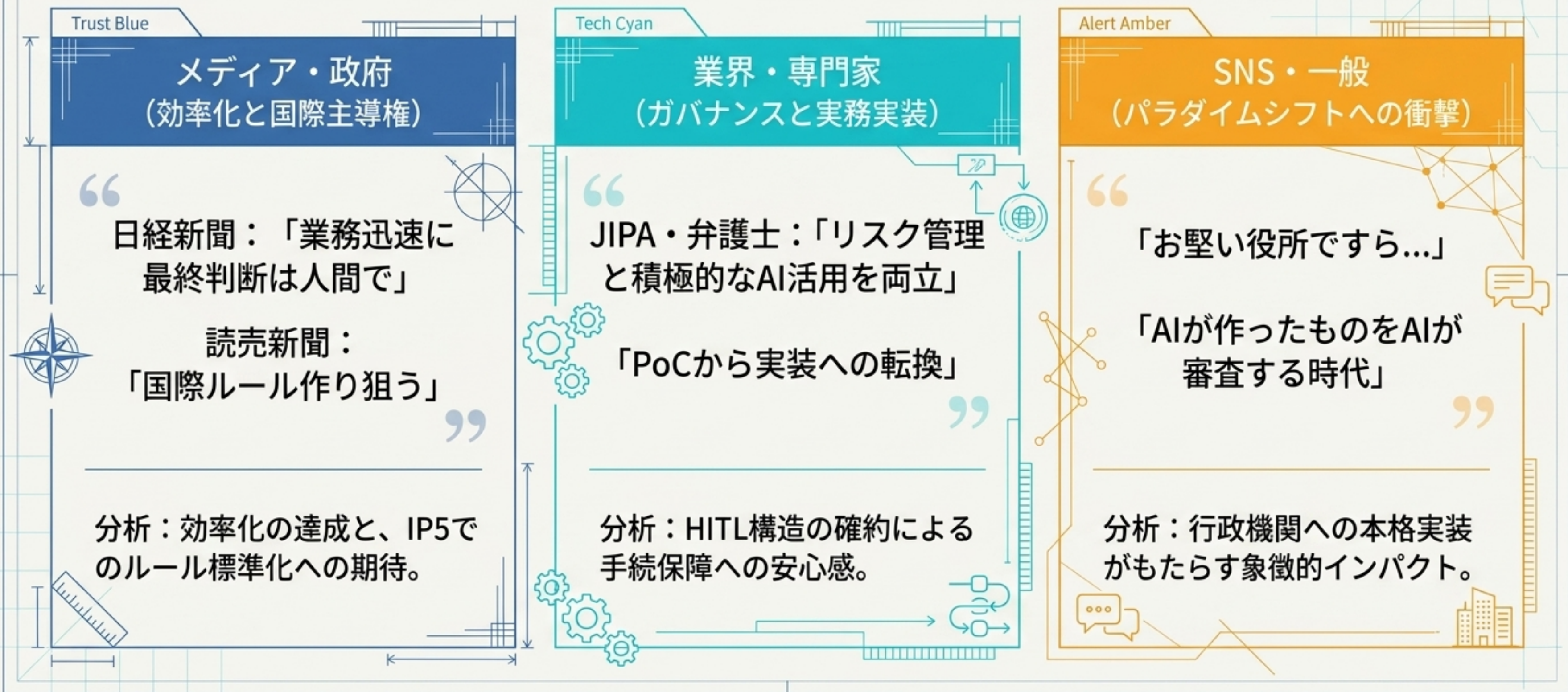
実務へのインパクト・ホライズン（影響予測）



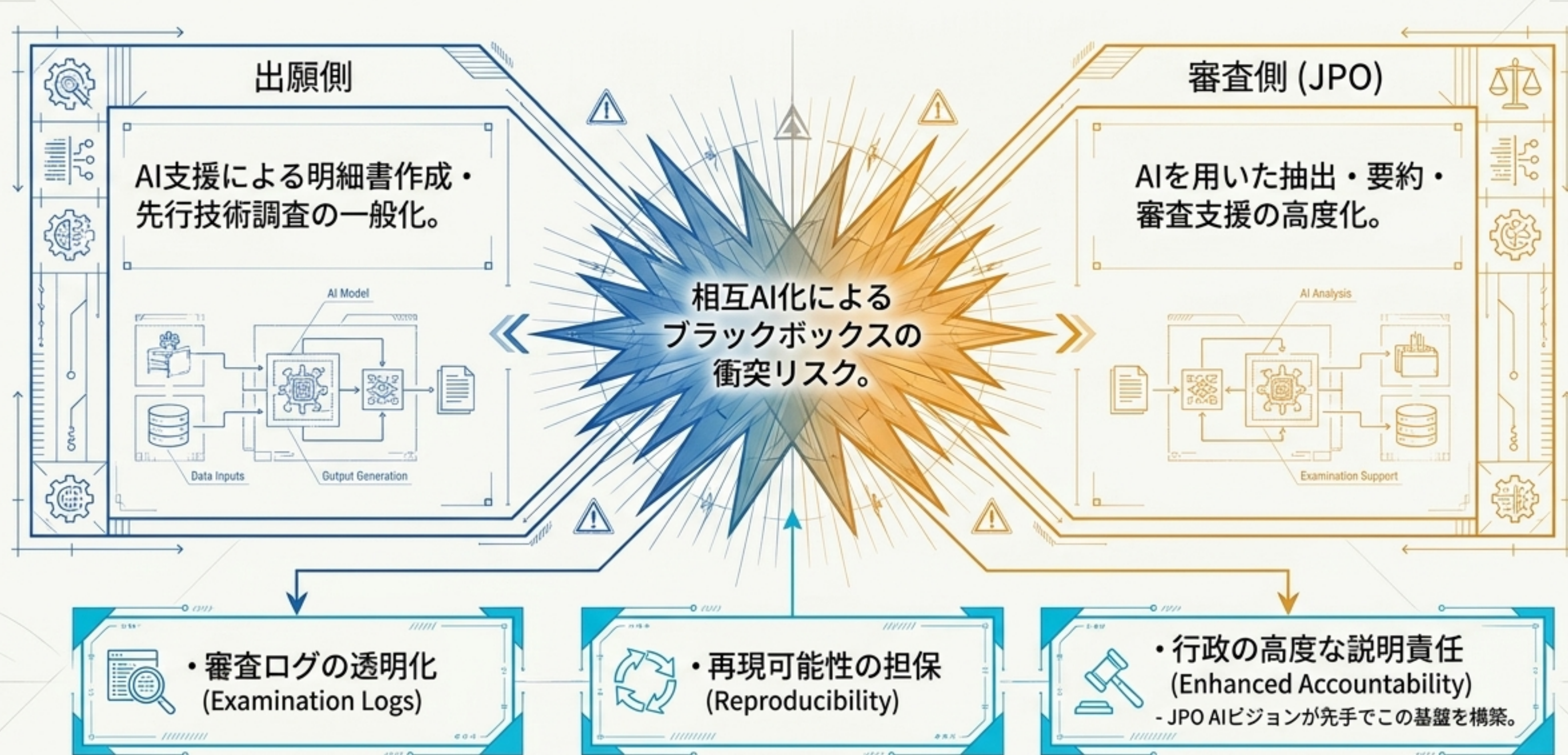
グローバル三極マトリクス：アプローチの比較



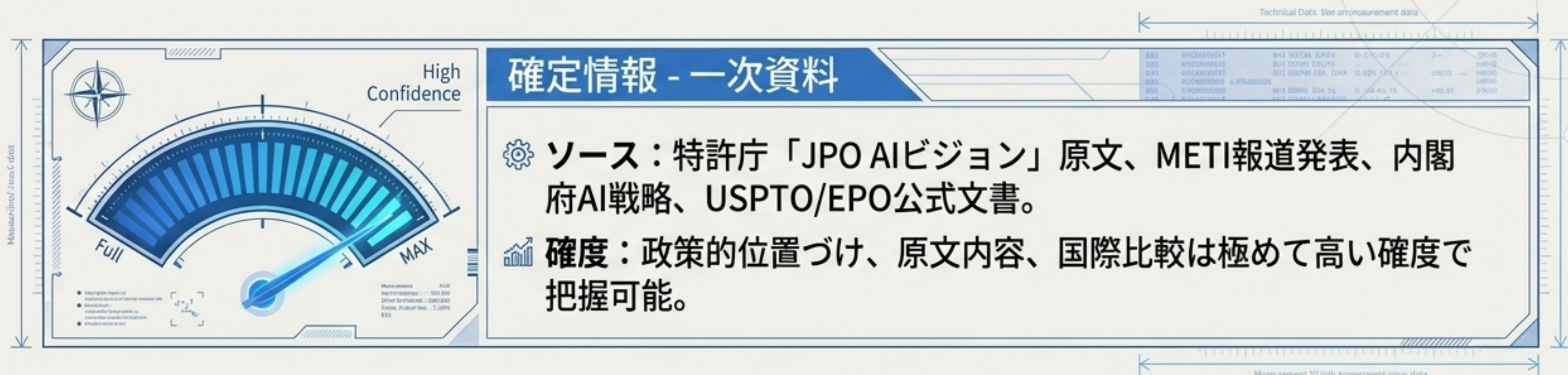
ステークホルダーの初期反響と論点ダッシュボード（2026年7月時点）



次なるフェーズ：「AI vs AI」エコシステムにおける信頼の担保

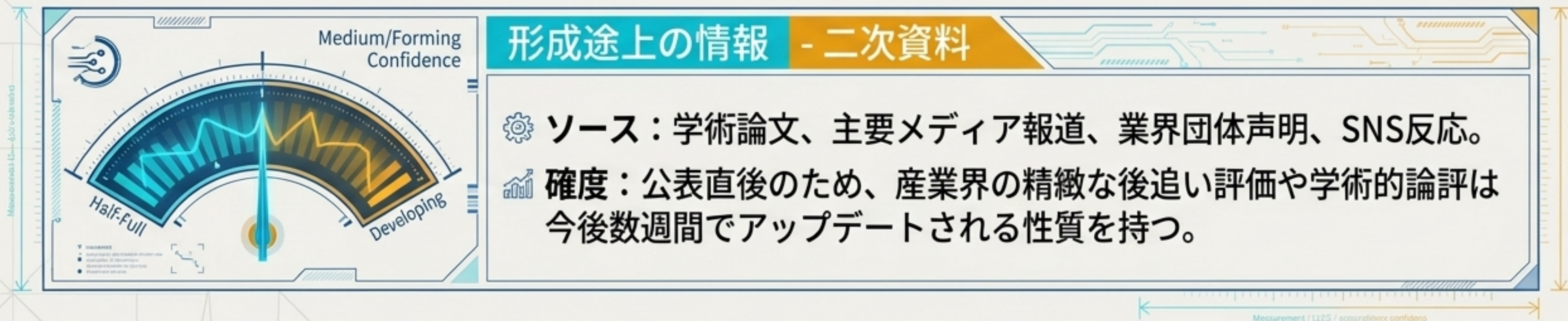


情報ソースとデータ信頼度評価（透明性の確保）



確定情報 - 一次資料

- ⚙️ **ソース**：特許庁「JPO AIビジョン」原文、METI報道発表、内閣府AI戦略、USPTO/EPO公式文書。
- 📊 **確度**：政策的位置づけ、原文内容、国際比較は極めて高い確度で把握可能。



形成途上の情報 - 二次資料

- ⚙️ **ソース**：学術論文、主要メディア報道、業界団体声明、SNS反応。
- 📊 **確度**：公表直後のため、産業界の精緻な後追い評価や学術的論評は今後数週間でアップデートされる性質を持つ。

戦略的統合：システム導入表ではなく「行政AI憲章」



**JPO AIビジョンの本質は、単なるツールの展開ロードマップではありません。
これは、AI法・IP5協調時代における『特許行政のAI憲章』です。**

即時の特許法改正は待ち得るが、運用ルールの厳格化、プロセス監査、そして人間の説明責任（HITL）は、今日から始動する。
知財実務家は、「AIを使うか」ではなく「いかに統治条件下で使うか」へ意識を移行せねばならない。